

令和2年度 徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長

森本 真由美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 検 討 委 員 会		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本 真由美 小谷 慎一
学力向上推進員	教務課長	中 史治
委員	小学部長 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任	藤原 美咲 近藤 美和子 北條 佳子 土井 哲士

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よさ	昨年度の取組の結果, さまざまな学習活動を通して, 「わかった・楽しい・できた」を実感し, 意欲的に学び, 持てる力を伸ばすことができるようになってきている。初めての活動や慣れない場所での学習等に対して不安を感じたり, 課題に戸惑いを見せたりする児童もいるが, 個々の実態に応じて, 視覚的な見通しを持てるようにしたり, 興味のあることや得意なこと, 好きなことを活動に取り入れたりすることで, 個々の力を発揮することができる。	課題	児童数が少なく, 個々の実態の差も大きいので, 学習グループを形成することが難しい現状であり, 子ども同士で対話的に学び合う場や機会が限定されている。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況	
授業など様々な学習活動を通して, 学びと成長を実感し, 自分の力を発揮することができる。	目標に対する達成状況について, 教員にアンケートをとり, 「達成できた」, 「どちらかという達成できた」の評価を合わせて7割以上で達成とする。		
			評価

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①研究授業の指導内容及び指導案検討会等において、小学部の全ての教員が助言等を行い、主体的に授業づくりにかかわる。 ②児童の実態に応じて、計画的に作品を制作する。	①研究授業の指導内容及び指導案検討会を年間4回以上行い、小学部のすべての教員が積極的に授業づくりにかかわる。 ②児童一人につき年間2回以上、学校ホームページ等で作品を発信する。	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(中・高等部) 幼児児童生徒の状況		
児童	様々な活動において、積極的に行動し、力を発揮することができている。学部全体での取組においても、生徒同士が協力し合って活動することができており、その際、自分の意見等を発信し、意見交換をすることができる。	課題
	広い視野を持ったり、発信力を高めるために、校外の人との関わりの中で、経験を積むことが重要である。しかし、病弱の障がいのため、頻りに校外へ出ることは難しく、タブレット端末を活用した遠隔授業の展開が望ましいと考えられる。タブレットを通していかに発信力を高めていくか、またこの学習活動を通して自信につなげていくことが課題である。	
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
遠隔授業システム(テレビ会議システム等)を活用した学習活動等を通じて、自分の学習の成果等を発信することができる。	目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらか」と達成できた」の評価を合わせて7割以上で達成とする。	
		評価
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
教員を2グループに分け、A班(学校と病棟及び家庭)、B班(学校と地域)に分け、遠隔授業の活動計画を立て、実践を進める。また、学習におけるタブレット端末活用方法を検討しながら進め、活動内容の振り返りと改善を行い、次回の取組に生かすようにする。	学校と病棟及び家庭、地域をテレビ会議システム等を利用して年間6回以上学習活動を進める。	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		